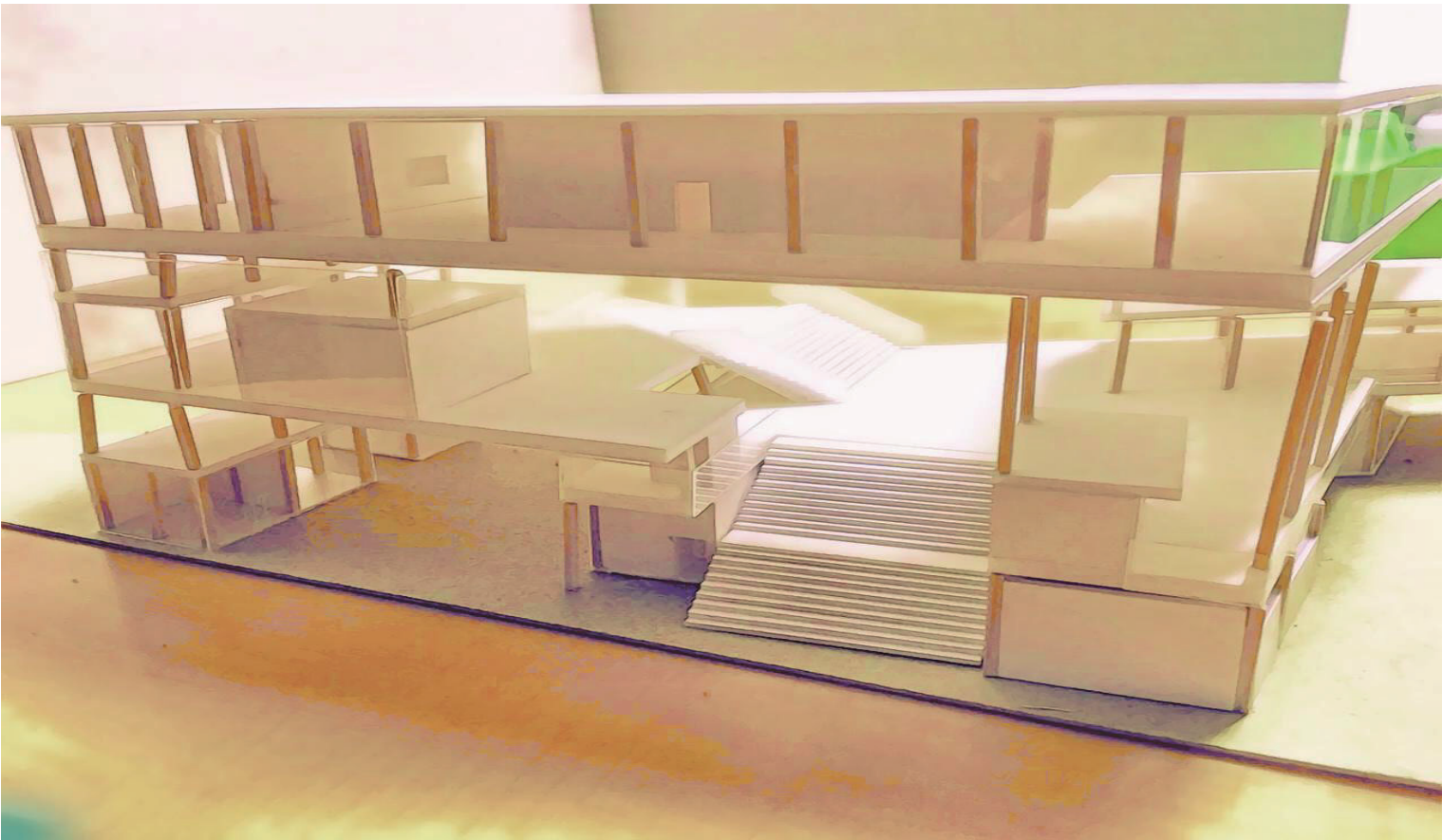




大橋真文
建築設計計画研究

□背景
近年日本は少子高齢化が進み、人口減少期に入りました。地方中核都市においては中心地特に商業地の衰退期を迎えています。そんな中2020年日本でオリンピックが行われることになり、だんだんと準備が進んできています。今回の敷地はオリンピック競技セーリングが行われる江ノ島を選びました。江ノ島周辺には3つの駅があり、小田急線、江ノ電、そして湘南モノレール。今回は中でも私も親しみのある湘南モノレールの駅舎にしました。

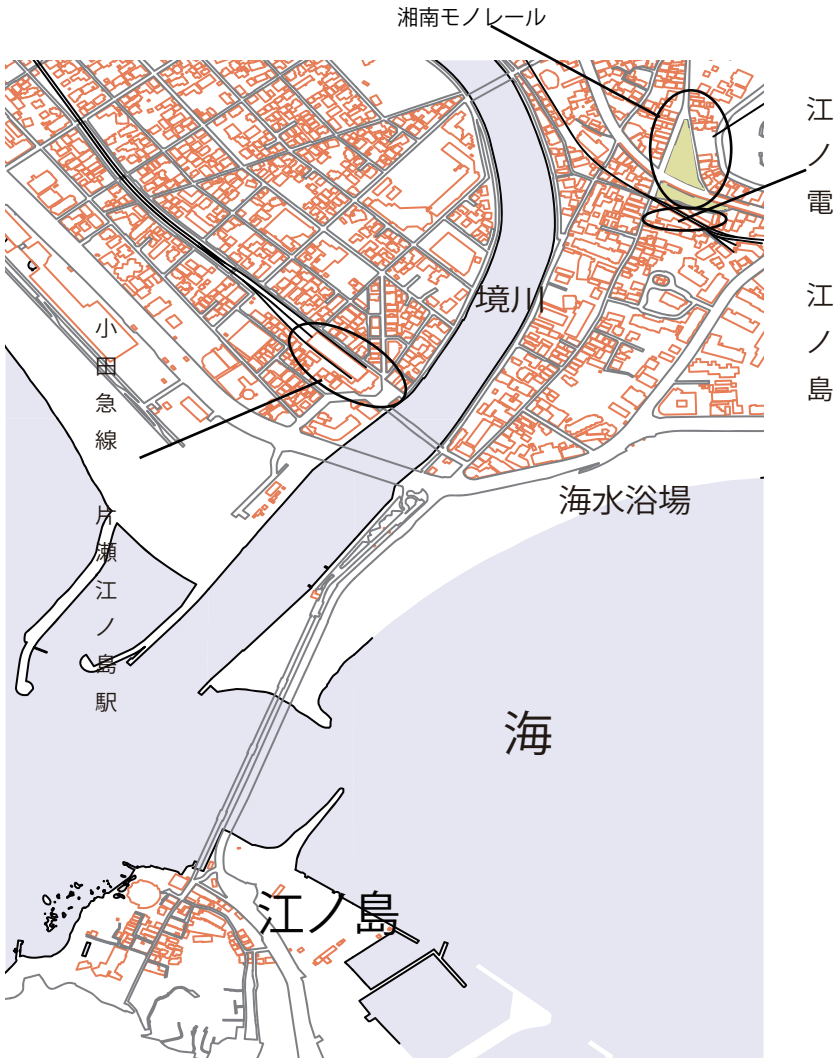


□歴史

今回の敷地である神奈川県藤沢市片瀬は江ノ島で有名な観光地です。鎌倉時代は、「固瀬」という地名であり付近を流れる、固瀬川（現在の境川）近くで罪人の処刑が行われていました。その反面江ノ島は神聖な島とも呼ばれており当時から大変信仰が強かったそうです。明治時代入り鉄道が普及し始め、1902年江ノ電が開通しました。その後、昭和時代の1929年小田急線「片瀬江ノ島駅」が開通、1971年に湘南モノレール「湘南江ノ島駅」が開通し江ノ島に駅が3駅となりました。

□モノレールについて

湘南モノレールは日本に2箇所しかないサファージュ式モノレールです。一般のモノレールと違いレールが上に引いてあります。これにより雨水・積雪の影響を受けにくく安定した運行が可能になっております。大船～湘南江ノ島間を約14分ではしり、アトラクションのようなエキサイティングかつ爽快感を体感できます。



□プログラム

まずはじめに各場所を早く行き来できる交通の確保をしました。歩きでは行きにくい中距離の場所も回ることができるように、地域全体が潤うのではないかと考えました。次にモノレールの見せ方を変えました。大変珍しい懸垂式のモノレール、展望台をつければ観光客の興味を引けるのではないかと考え、これを町のランドマークにできるよう、片側ホームにしました。

□コンセプト

今回のテーマは、「これから活発化する駅に何が必要か」です。観光客のために設計するのではなく、周辺地域の人々が気軽に利用できるよう考えました。個人利用可能な貸しスペース、人々の合流地点としてのペDESTリアンデッキなどを加え、強い地域性をより強固にすべく設計をしました。

□デザイン

駅はその地域が迎える玄関でもあります。海水浴場も近いということもあり、ホームから出たら海が見えるようにしました。内部と外部を曖昧にし、光と風を多く取り入れるためスラブを重ネタデザインにしました。

